

問1 日本の地方自治において、住民が行政の長である首長（知事や市町村長）と、議決機関である地方議会の議員を、それぞれ別の選挙によって直接選出する仕組みを何といいますか。（2026年 埼玉公立入試 類似）

1. 二元代表制                      2. 議院内閣制                      3. 直接民主制                      4. 三権分立

問2 被災した肥薩線の復旧に関する意識調査において、一般の住民と比較して高校生の復旧希望率が非常に高いという結果が出ています。また、復旧を求める理由として「風景の良さ」なども挙げられています。これらの状況から推察される、鉄道復旧に期待されている効果として適切なものはどれですか。（2024年 兵庫公立入試 類似）

1. 通学手段としての利便性を確保すると同時に、豊かな自然景観を資源として活用し、観光客を呼び込むことで地域振興につなげる効果。  
2. 鉄道を復旧させることで、沿線のすべての高校生が自家用車を通学に利用するよう促し、二酸化炭素の排出量を削減する効果。  
3. 観光客の利用を制限して高校生専用の列車を運行することで、鉄道会社の利潤を最大化し、他の公共サービスの予算を削減する効果。  
4. 風景を楽しむ観光客から高い運賃を徴収することで、高校生の通学にかかる費用を完全に無料化し、地域全体の人口を急増させる効果。

問3 地方自治における「民主主義の学校」としての側面を支える、地方議会議員の選出の仕組みについて正しい説明はどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）

1. その地域の住民が、自分たちの代表者を直接の投票によって選ぶ直接選挙制がとられている。  
2. 地方公共団体の長が、地域の労働者や専門家の中から候補者を指名し、任命する仕組みである。  
3. 都道府県知事や市町村長が、国会議員の助言に基づいて議会の構成員を決定する。  
4. 住民が代表者を選ぶのではなく、行政運営を担当する公務員の中から互選によって選出される。

問4 地方自治における「首長」と「議会」の関係について、次の記述のうち、権限の行使によって「抑制と均衡」を保つ仕組みを説明したものとして適切なものはどれですか。（2021年 大阪公立入試 類似）

1. 議会が首長の不信任を議決し、それに対し首長が議会を解散する権限  
2. 首長が議会に対して、予算案の作成を指示し強制的に議決させる権限  
3. 議会が首長の提案を無視して、国の法律に反する条例を制定する権限  
4. 首長が特定の議員を指名し、その議員の任期を延長させる権限

問5 1999年に制定された、国と地方公共団体の役割を明確に分担し、地方の自主性や自立性を高めることを目的とした法律の総称を何といいますか。（2026年 鳥取公立入試 類似）

1. 地方自治法                      2. 地方交付税法                      3. 地方分権一括法                      4. 地方財政法

問6 地方公共団体が、国が定める法律とは別に「条例」を制定できる仕組みが認められている理由として、最も適切なものはどれですか。（2020年 奈良公立入試 類似）

1. 地域ごとに異なる課題や住民の要望に対して、それぞれの地方公共団体が主体的に対応できるようにするため。  
2. 国会の審議時間を短縮するために、すべての法律の作成権限を地方公共団体に分散させるため。  
3. 都道府県知事や市町村長が、議会の同意を得ることなく強力な権限を行使できるようにするため。  
4. 裁判所が法律を解釈する負担を減らすために、地域ごとの裁判基準を明確にするため。

問7 地方公共団体が、ゴミの処理や消防、教育環境の整備など、住民に身近な行政を広く担っている主な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 国の財政負担をすべてなくし、行政サービスを住民の寄付のみで運営するため  
2. それぞれの地域の実情に応じた、きめ細かな行政サービスを提供するため  
3. 外交や防衛などの国家の根幹に関わる業務を、すべての市町村に分担させるため  
4. 全国どこでも完全に同一の公共施設を、国が効率的に一括管理できるようにするため

問8 日本の地方自治において、住民が行政の責任者である首長と、議決機関である地方議会の議員の双方を直接選挙で選ぶ仕組みを何とというか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 二元代表制                      2. 議院内閣制                      3. 三権分立                      4. 直接民主制

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>二元代表制</b>	地方自治では、住民が「首長」と「議会議員」という2つの代表を別々の選挙で直接選ぶ仕組みがとられています。これを二元代表制と呼び、首長と議会がそれぞれ独立した立場で住民の意思を反映し、互いに抑制・均衡を保ちながら地方行政を運営することを目的としています。国政における議院内閣制では、国会が内閣総理大臣を指名する点に大きな違いがあります。
問2	<b>答え 1</b> <b>通学手段としての利便性を確保すると同時に、豊かな自然景観を資源として活用し、観光客を呼び込むことで地域振興につなげる効果。</b>	地方鉄道の復旧は、単なる移動手段の確保にとどまらない意味を持っています。アンケート結果で高校生の希望率が高いことは、日常生活における鉄道への依存度の高さを示しています。また、風景などの魅力を理由に挙げる声があることは、鉄道を観光資源として再定義し、「観光客」を呼び込むことで地域の活性化を図る狙いがあることを意味しています。これは、限られた人口の中でも路線を維持していくための持続可能な地域づくりの戦略の一つです。
問3	<b>答え 1</b> <b>その地域の住民が、自分たちの代表者を直接の投票によって選ぶ直接選挙制がとられている。</b>	地方自治は、住民の意思に基づいて行われる「住民自治」を基本原則としています。そのため、地方公共団体の議決機関である地方議会の議員は、住民が直接投票によって選出する直接選挙制によって選ばれます。なお、地方公共団体の長（知事や市町村長）も同様に住民の直接選挙で選ばれており、議会と長が共に住民の代表である「二元代表制」が日本の地方自治の特徴です。
問4	<b>答え 1</b> <b>議会が首長の不信任を議決し、それに対し首長が議会を解散する権限</b>	首長と議会は、一方が独走したり権力を乱用したりしないよう、互いにチェックし合う仕組み（抑制と均衡）を持っています。議会は首長を監視し、不信任決議を行うことで責任を追及できる一方、首長は不信任を突きつけられた際に議会を解散する権限を持つことで、一歩的な罷免を防いでいます。この緊張感のある関係によって、民主的な地方行政が維持されています。
問5	<b>答え 3</b> <b>地方分権一括法</b>	この法律は、国から地方公共団体への権限移譲を進め、それまでの国が主導する上下・主従の関係から、対等・協力の関係へと作り変えるために制定されました。これにより、地方公共団体が自分の責任で地域の課題に取り組む「地域主導」の仕組みが強化されました。
問6	<b>答え 1</b> <b>地域ごとに異なる課題や住民の要望に対して、それぞれの地方公共団体が主体的に対応できるようにするため。</b>	地方自治は「民主主義の学校」と呼ばれ、住民が自分たちの地域のあり方を自分たちで決めることが重視されます。全国一律の法律だけでは対応できない細かなニーズや、地域特有の自然環境・文化を守るために、地方公共団体が独自に判断してルールを作る条例の仕組みが必要とされています。
問7	<b>答え 2</b> <b>それぞれの地域の実情に応じた、きめ細かな行政サービスを提供するため</b>	地方自治は「民主主義の学校」とも呼ばれ、地域住民が自らの意思と責任で地域の課題を解決することを重視しています。ゴミの処理方法や学校の配置などは、地形や人口密度といった地域の状況によって最適な形が異なるため、国が一律に決めるのではなく、地域住民に近い地方公共団体が判断して運営することで、より実情に即した行政が可能になります。
問8	<b>答え 1</b> <b>二元代表制</b>	住民が、行政を行う首長と、予算や条例を審議する議会の議員という、役割の異なる二つの代表を別々に選出する仕組みを指す。国政の議院内閣制では、国会が内閣総理大臣を指名するが、地方自治では首長も住民が直接選ぶため、首長と議会は共に対等な立場で住民の意思を反映させる役割を担う。